

株式会社 中嶋製作所

樹脂の切削加工専門、
軽量さウリに成長中

コスト
相談
メイド
イン
ジャパン
試作可
小ロット
量産
対応



本社工場内、若手が活躍

業務内容
医療用分析機器向けの
樹脂部品などが堅調

「中嶋製作所」は液晶パネルや半導体の製造装置、医療用分析機器の樹脂部品の切削加工を手がける。3次元CAD/CAMや4軸マシニングセンター（MC）なども保有し、複雑な形状の加工もこなす。塩化ビニール樹脂やABS樹脂など汎用樹脂から、フッ素樹脂やポリエーテルエーテルケトンといった超耐熱性樹脂まで幅広く手がける。

血液検査などに使う医療用分析機器は、平成20年のリーマンショックで受注が減った際、新たな需要を取り込むべく取引先の分散化に取り組む中で受注に成功した。以来、同社の成長を支えている。

強み
長年の経験生かし、
朝夕の寸法変化を補正

樹脂加工専門として培ってきた技術力には厚みがある。樹脂加工で難しい点の1つとして、中嶋孝典社長は「樹脂は切削加工すると形状が変化する」と話す。加工時の熱により、樹脂内部に残る歪が現れ、形状が変化する場合がある。朝と夕方でも寸法が変化する場合もあり、同社では長年の経験で条件を補正している。

市販品にはない形状や仕様の刃具は自社で設計製作している点も強みだ。刃具は画像解析装置を使うことで、マイクロメートル単位の「肉眼では確認できない」寸法精度に仕上げる。

難加工
ガラス・カーボン繊維補強の
加工技術向上に注力

金属部品の切削加工を手がける企業は多いが、樹脂の切削加工は少ない。中嶋社長も「10社程度しか知らない」という。最近では試作

品の仕事でも、ガラス繊維や炭素繊維で強度を高めた樹脂部品の加工が増えている。試作と量産のスペックの違いをなくし、短期に量産に移行する流れにあるからだという。繊維補強された樹脂加工は難度を増すが、樹脂の切削加工業として、さらに差別化を進めるチャンスでもある。

社員が比較的若いのも強みだ。将来を支える人材として定着を促すため、会社が繁忙の状態であったとしても、「1つ教えたら、後は自分で学べ」というスタンスではなく、仕事を細かくフォローし、着実に成長してもらうようにしている。また、ほぼ毎月、懇親会を設けている。「仕事以外のコミュニケーションも重要」と中嶋社長は考えている。

今後の展望
新工場も視野、
樹脂代替提案で市場開拓

堅調な医療用検査機器に加え、海外で液晶パネルや半導体関連の投資が活況を呈する中、同社においても「仕事であふれるくらい」の状況だという。同社はほぼ毎年MCを導入しており、本社工場、第2工場とも手狭となってきたため、新工場建設も検討している。中嶋社長は「まだまだ（金属の代替として）樹脂化が進んでいない」と見ており、「軽い」「さびない」といった樹脂の強みを展示会などでアピールし、市場開拓を進めていく方針だ。



社内で製作した刃具



本社工場外観

当社の歴史



創業間もない昭和30年代は万年筆のペン先の加工などを手がけてきました。創業時に購入したろくろは、今も小型品の加工に使っています。現在は半導体や医療関連の装置向けの高精度樹脂部品を加工し、従業員数も50名弱の体制となっています。

代表取締役社長 中嶋 孝典さん

<http://www.nakajimas.co.jp/>

ISO 9001
ISO 14001

主な事業内容
樹脂部品の切削加工

主な取引先(納入先)
医療部品メーカー、半導体や
液晶パネルの製造装置メー
カー

●住所 〒546-0002
大阪市東住吉区
杭全5-13-27
●TEL 06-6714-2939
●FAX 06-6714-0629
●創業 昭和33年10月
●設立 昭和60年8月
●資本金 1,000万円
●従業員 48名